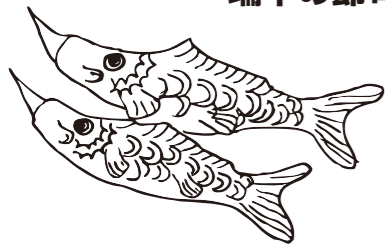


## 多摩の暮らし～歳時記

### ～端午の節句～



日本には五つの節句があります。季節の訪れと食の文化を、そのところで祝うものです。

5月5日は端午の節句です。「端」は初めての意で、「午」は五に通じるところから、5月の初めての五で、5月5日が端午の節句となったといえます。現代では、こどもの日として国民の祝日です。

江戸時代以後、男子の節句とされ、武家では甲冑、幟を飾りました。それがだんだんと町人等一般にも普及し、外に幟柱を立て、五色の布(青赤黄白黒又は紫)に家紋等を入れた吹流しを上にし、その下に緋鯉に、真鯉等家々の祝品を順々に吹き流します。風の流れを遠望でき、勢いよく鯉が泳ぐ姿は絶景です。世界の芸術のうちでも、大空を海にし、大きな吹流しや鯉を高く泳がせる、この風景は非常に高く賞賛されています。

家風や住居の都合等により、外に幟を立てず、家の内で子どもの成長を願い祝う飾りとして五月人形があります。鎧兜が中心に置かれ、五月人形は脇に飾られます。五月人形は、歴史上語り継がれる人物(神武天皇、加藤清正、曾我兄弟、太田道灌、桃太郎、金太郎等)がモデルとなっており、親戚等から祝人形として贈られます。

お供えは粽(ちまき)、柏餅(かしわは神様を拝むとき、両手を打ちならすことから)、清酒、かきつばたの花(紫、白)等です。

また、この日は、ショウブ、ヨモギを玄関や軒に挿して、邪気を払います。そのショウブをお風呂に入れ、ショウブ湯で体を浄める風習は、現在でも行われています。

祝膳は、お頭付きの魚に、竹の子(輪切り)、人参、ごぼう、里芋、コンニャク、結びこんにゃく等を鰹ぶしの出し汁で煮たものと、餅米の赤飯、はまぐりの潮汁(うしおじる)で仕立てます。(川口)

## 多摩区地域教育会議

地域教育会議は、保護者・教育現場・地域とのネットワークづくり、大人も子どもも心豊かに関わりあえる地域社会の形成等を目的として事業を進めています。

多摩区には、多摩区地域教育会議と7中学校区の地域教育会議があります。多摩区地域教育会議は各中学校区の地域教育会議の支援を行い、区民と行政との協働を推進する組織として機能しています。

構成委員は、一般公募の住民、教育等に関わる組織の代表、そしてPTA・町内会等の団体から選ばれた委員で、それぞれの専門分野を発揮し協力しながら運営しています。

教育を語るつどい、子どもの活動支援、「舞ハートTAMA」等の事業を実施しています。(本多)



教育を語るつどいのような様子

まち協のなかまたち

多摩区まちづくり協議会への委員推薦団体をご紹介します



いきいき輝きましよう

## 多摩区地域女性連絡協議会

多摩区地域女性連絡協議会(多摩女連)は、川崎市地域女性連絡協議会(川女連)の多摩地区組織です。「人づくり」・「地域づくり」をしようと町内の女性が集まったことが起源です。現在は、平和・環境・子育て・男女共同参画の学習など様々な地域の課題に取り組み、女性も男性もいきいきと輝ける、暮らしやすい地域づくりを進めています。

会員は約30名で、活動は主に川女連の行事への参加や、多摩区区民祭への出店、講習会・学習会を開催しています。会員が高齢化していますので、若い方たちの入会をぜひお願いします。どなたでも入会できますのでお待ちしております。(竹間)

## 2期のおしらせ

平成22年4月から、多摩区まちづくり協議会の活動は第2期に入ります(1期は2年です。)。第1期の反省点を踏まえて、多摩区の課題に対してより効果的に活動できるよう見直しをしました。第2期の活動に引き続きご注目ください!

多摩区まちづくり協議会へのご意見・ご質問、プロジェクトへの参加申込はこちらへお願いします。

【事務局】〒214-8570  
多摩区役所地域振興課まちづくり推進係  
電話 935-3148  
FAX 935-3391  
メール 71tisin@city.kawasaki.jp



多摩区まちづくり協議会は、区民の自主的なまちづくり活動組織です。区民が取り組む地域活動を、年4回発行でお知らせしています。

# 私たちのまちづくり

多摩区まちづくり協議会 NEWS 平成22年4月

27号

## まちカツ! を終えて

平成21年度が多摩区まちづくり協議会の活動発表会(まちカツ!)を開催しました。1月30日(土)から2月6日(土)まで多摩区役所1階アトリウムで展示発表を行い、2月6日(土)に多摩区役所11階会議室で、講演会と6プロジェクトの1年間の活動を報告しました。

まず財団法人さわやか福祉財団ふれあい推進事業プロジェクトリーダーの木原勇(すすむ)氏に「今求められる地域の支え合い」と題して、講演をしていただきました。

その後、6プロジェクトの活動報告を順次行いました。成果の出ているプロジェクトや、これから本格

的に展開されるプロジェクト等状況は様々ですが、いずれもこれからの活動の成果が楽しみです。3時間にわたる発表会でしたが、100人くらいの方が熱心に議論に参加していただき、有意義な発表会になりました。

まちカツ!にお越しいただいた皆さまありがとうございました。今後の多摩区まちづくり協議会の活動にご期待ください。(本多)



## 今求められる地域の支え合い(講演より)

全国を飛び回っているさわやか福祉財団の木原勇氏に、全国各地で仕入れた地域の支え合い活動の課題、特に人間関係づくりの難しさについて具体的な言葉で話していただきました。



講師の木原勇氏

「みつともない」「家に入られたくない」という理由から、人間関係づくりの上で困難な場面があるということでした。

そして、地域の支え合い活動の成功例として、VTRを使って長野県駒ヶ根市の「宅福便」の様子を紹介され、最後に地域の支え合いネットワークづくりは、それぞれの違いを知り、認め、尊重することから共通性を見出すことによる「共感づくり」を始めることが大切と締めくくられました。

地域福祉のことが中心でしたが、まちづくり活動にも通じることの多い基調講演でした。(丸山)

## まちカツ アンケート結果

2月6日に開催された活動発表会(まちカツ!)には約100名の方々にお越しいただきました。お越しいただいた皆さんのうち約40%の方がアンケートに答えてくださいました。

- 男性、女性とも60才代が最も多く参加しました。
- ボランティアやまちづくり活動の経験がある…約60%
- まちカツ!で初めてまち協を知った…約25%
- まち協の活動に興味がある…約85%

### < 講演会の感想(抜粋) >

- \*地域のネットワークづくりははととても大切だと思います。人口の多い川崎市において活動するのはかなり難しいと感じています。
- \*地域の関係が希薄になり、国の財政にも頼れなくなってきた、いよいよ地域の住民同士が支え合わなければならなくなりました。先生のお話を聞いて様々な人と知り合い関わりあうことで地域住民が元気になっていくことが分かりました。

### < プロジェクト活動発表の感想(抜粋) >

- \*6つのプロジェクト1つ1つが、このまちの活性化につながる活動をしていると思いました。決して派手ではありませんが、市民一人ひとりの意識をまちづくりに向けられるような活動がたくさんあったと思います。
- \*もっと若い方たちも参加してもらえればいいと思います。
- \*今後は少しずつ地域に浸透する時期にきているのでは。

## 編集後記



井田

早いもので第1期が間もなく終わろうとしています。振り返るといろいろなことがありました。区役所の屋上から多摩区を一望したことが印象に残っています。登戸・向ヶ丘遊園地区が確実に変化しているということが目に見えてよくわかりました。

現在まち協では、第1期の反省点を洗い出し、ワークショップ形式で改善点を話し合っているところです。第2期も手づくりのまちを目指して頑張っていきたいと思います。(井田)



# 第1期の活動を終えて

※現在、プロジェクトの見直しを進めています。第2期(平成22~23年度)の活動については、決まり次第発表します。

プロジェクト

## 2 花と緑でまちづくり ~ご近所の空き地を花壇にしよう~



### 〈まちカツ!での報告〉

①地域グループを作る仲立ちをし、荒れている空き地に草花、苗木等を植えて維持管理してもらう活動をしています。地域の信望が厚くかつ熱心な人でないと受け皿グループを立ち上げることができません。今までの累計で28か所の花壇を作り、43%は菅、25%は栗谷です。②今年度は22か所の緑地調査をし、

手入れが不十分な緑地には、保全管理団体を立ち上げ、維持管理するところまで達成したかったのですが、調査報告書を完成させ、市の環境局への報告までを行いました。

〈第1期の感想〉 第1期には6か所の花壇を完成させることができました。緑地調査は区内全ての調査を終え調査報告書を完成しましたので、最終目的である保全管理団体の立ち上げは今後に期待したいと思います。(寺尾)

プロジェクト

## 6 まちづくりグループの情報交換・交流ネットワークづくり



### 〈まちカツ!での報告〉

団体活動の活性化を目的とした活動をしています。第1期では、他区の先進事例として宮前区まちづくり協議会ネットワーク化委員会を見学し、意見交換を行いました。また、区民活動情報ひろばマップ編集に参加し、区内の団体のデータベースづくりを行いました。そして、中間支援活動のあり方を検討するため、まずまち協内部で市民活動の課題集めをするため、市民活動に役立つ勉強会の実験

として、「お悩み解決勉強会」を開催しました。今後の活動としては「市民活動で利用できる拠点探し」を進めていきます。

〈第1期の感想〉 前半、活動の方向性を統一するために、「ネットワーク」のイメージを出し合い、かなりの時間話し合いました。その結果、まずは「市民活動で利用できる拠点探し」を行っていくという、今後の方向性を見出すことができました。

最後に率直な感想として、当プロジェクトの女性メンバーの発想と行動力には敬服しました。(池野)

プロジェクト

## 5 家庭の「資源物」分別回収を広めよう



### 〈まちカツ!での報告〉

家庭から出る資源物の分別回収を広めようと活動してきました。資源物の分け方と出し方の見やすいチラシを作り、メンバーの所属している町会掲示板やごみ集積所に貼ったり、各種イベントで配布したりしました。また、南部リサイクルセンターに見学に行

き、一人ひとりがきちんと資源物を排出することが、ごみの再資源化と減量を進める大きな力となることを再確認しました。

〈第1期の感想〉 まちづくり活動は「言うは易し行うは難し」です。それぞれの活動を尊重し協力しあって、実践活動を行い、行政と協働してより良いまちづくりに向かって頑張りたいと思います。(井上)

プロジェクト

## 3 多摩区の観光資源・地産地消のマップづくり



### 〈まちカツ!での報告〉

地産地消と隠れた観光スポットを視点としたマップを作成するため、掲載する場所の調査に行ってきました。地産地消については農家の直売所を探しました。JAセレサ川崎の協力を得て区内農家へアンケート調査を行い、約30件いただいた回答を基に直接農家へ伺い、ヒアリングさせていただきました。観



光スポットは有名なものではなく、気になる場所を実際に歩きながら探しました。

〈第1期の感想〉 緑の多く残る区内を歩きながら、農産物の直売所や隠れた観光スポットなどを訪れるうち、いつしかいちばん癒される場所を探していました。新鮮な野菜を求める折や散策の折、手軽に使ってもらえるマップにするために、形や表示方法を検討していきたいと思います。

(安陪)

プロジェクト

## 1 区民でつくろう、地域交通



### 〈まちカツ!での報告〉

老後も自分で気軽に外出して楽しい暮らしをするには、自分が望む時望む場所に行けることが大切です。

多摩区は丘陵地帯が多い地域ですので、まず、地勢を知るために標高を確認しました。また、交通網(鉄道・バス)を調べ、無理なく歩ける距離として電車の駅と、バス停からの距離を確認しました。開発の速度にバスサービスが追いつかず、市

バスが近くまで来ていない地域も沢山あります。困っている地域や人に対して、行政が深く関わる形で支援する体制が必要だと思います。

(柴田、谷口)

〈第1期の感想〉 地域交通の問題はこれからますます身近で切実な課題であると思います。ぜひ、これからも先へ進めてくださるようお願いできません。一緒に頑張ってきた仲間から心からの感謝を申し上げます。

(柴田)

プロジェクト

## 4 世代間の交流ができるコミュニティセンターをつくろう ~子どもからシニア・みんなで楽しく心のふれあいを~



### 〈まちカツ!での報告〉

独居老人や子どもの孤立化が進んでいる中で、心を通わせて安心して暮らすために世代間交流が求められています。自分たちの持っている能力を出し合い、地域に役立つグループをつくりたいと思っています。町中でほっとできて思わず足が向くような楽しい拠点があるとよいと思います。

私たちは、4つの活動(①コミュニティサロンの開催②生田中や菅こ文等での活動③情報紙の発

行④勉強会・見学会の開催)を通じて地域と連携しコミュニティ力を醸成しながら、コミュニティセンターをつくる必要性を強く感じました。(本多)

〈第1期の感想〉 「まず、やってみよう!」の合言葉で始めた私たちの活動。地域の人たちと触れ合い、子どもたちと出会い、いろいろな分野で活動している人との関わりの中で充実感をもらい、活動の必要性和重要性を感じ取りました。「ようやく一つ一つの活動が結び合っ、多方面への芽が出はじめた」の感深し。もっともっとみんなと楽しみ合い、輝きたい。(久野)